

V. 調查結果 寡婦世帶

V. 調査結果 寡婦世帯

本人および世帯の状況について

① 年齢

質問 1 あなたの生年月を記入してください。

表：年齢（％）

		20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	11.6	21.5	29.5	36.7	2.4
	一般計(n=199)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	13.6	21.6	26.6	37.2	3.0
	震災計(n=52)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	21.2	40.4	34.6	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	18.8	29.9	23.4	14.9	9.7
	一般計(n=120)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	20.8	30.0	18.3	15.0	11.7
	震災計(n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	29.4	41.2	14.7	2.9

現在の年齢については、寡婦世帯合計で見ると、「60歳以上」が36.7%と最も多く、次いで「55～59歳」が29.5%、「50～54歳」が21.5%と続いている。一般世帯と震災世帯を比べると、震災世帯は「55～59歳」の割合が40.4%と大きく、反対に「60歳以上」の割合が34.6%と小さくなっている。

前回調査と比較すると、全体としてみると前回調査同様40歳未満の割合が小さく、高い年齢層が多くなる形となっている。

② 同居している家族

質問 2 現在同居している家族は何人ですか。

[該当する番号すべてに○をつけ、それぞれ人数を（ ）に記入してください。]

表：同居している家族の人数

		1人	2人	3人	4人	5人以上	いない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	40.2	17.9	6.4	2.4	0.8	29.5	2.4
	一般計(n=199)	38.2	17.6	7.5	2.0	1.0	30.2	3.0
	震災計(n=52)	48.1	19.2	1.9	3.8	0.0	26.9	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	33.1	20.8	9.7	4.5	1.9	18.2	11.7
	一般計(n=120)	31.7	22.5	10.8	5.0	1.7	15.0	13.3
	震災計(n=34)	38.2	14.7	5.9	2.9	2.9	29.4	5.9

現在同居している家族の人数については、「1人」(40.2%)が最も多く、「いない」(29.5%)、「2人」

(17.9%)と続いた。一般世帯に比べて、震災世帯の方が「1人」(48.1%)や「2人」(19.2%)の割合が大きい。

表：家族構成

		父母	祖父母	子ども	兄弟姉妹	孫	子の配偶者	一人暮らし	その他	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	25.5	0.0	52.6	3.2	3.6	2.0	28.7	1.6	2.4
	一般計(n=199)	26.1	0.0	51.8	3.0	4.0	2.5	29.1	1.5	3.0
	震災計(n=52)	23.1	0.0	55.8	3.8	1.9	0.0	26.9	1.9	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	24.7	1.9	60.4	1.9	3.9	4.5	18.2	3.9	10.4
	一般計(n=120)	26.7	1.7	62.5	2.5	4.2	5.0	15.0	3.3	11.7
	震災計(n=34)	17.6	2.9	52.9	0.0	2.9	2.9	29.4	5.9	5.9

家族構成については、寡婦世帯計で見ると「子ども」が52.6%と最も多く、次いで「一人暮らし」が28.7%、「父母」が25.5%と続いている。一般世帯と震災世帯を比べると、震災世帯において「子ども」(55.8%)の割合が最も大きいことには変わりはないが、「一人暮らし」(26.9%)、「父母」(23.1%)と回答する割合がやや小さかった。

前回調査と比較しても、全体としての傾向は変わらないが、震災世帯において「一人暮らし」が減少している。

③ 寡婦世帯となった理由

質問3 配偶者がいないのはどのような理由からですか。[該当する番号1つに○をつけてください。]

表：寡婦世帯となった理由 (%)

		病死	災害、事故死	その他死亡	離婚	未婚の父	遺棄	配偶者の心身障害	家出、行方不明	その他	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	6.0	18.7	1.2	69.7	0.8	0.4	0.4	0.0	0.4	2.4
	一般計(n=199)	6.0	0.5	1.0	87.4	1.0	0.5	0.5	0.0	0.5	2.5
	震災計(n=52)	5.8	88.5	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	9.1	20.1	2.6	59.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7
	一般計(n=120)	10.8	1.7	3.3	73.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.7
	震災計(n=34)	2.9	85.3	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9

寡婦世帯となった理由については、全体としてみると「離婚」(69.7%)と最も多く、「災害、事故死」(18.7%)、「病死」(6.0%)がこれに続いている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯では「災害、事故死」(88.5%)が最も多く、全体としての「災害、事故死」の割合を押し上げる形となっている。

前回調査と比較しても、全体としての傾向は変わらない。

④ 寡婦世帯になってからの年数

質問 4 配偶者がいなくなられた時期を記入してください。

表：寡婦世帯になってからの年数（％）

		2年未満	2～5年未満	5～8年未満	8～11年未満	11～15年未満	15～18年未満	18～20年未満	20年以上	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	2.4	2.0	3.6	3.6	25.5	7.2	5.2	33.5	17.1
	一般計(n=199)	3.0	2.5	4.5	4.0	8.5	8.5	6.0	41.2	21.6
	震災計(n=52)	0.0	0.0	0.0	1.9	90.4	1.9	1.9	3.8	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	0.0	0.0	20.8	8.4	15.6	13.0	11.7	20.1	10.4
	一般計(n=120)	0.0	0.0	3.3	8.3	19.2	16.7	14.2	25.8	12.5
	震災計(n=34)	0.0	0.0	82.4	8.8	2.9	0.0	2.9	0.0	2.9

寡婦世帯になってからの年数については、全体としては「20年以上」（33.5％）が最も多く、「11～15年未満」（25.5％）、「15～18年未満」（7.2％）の順となった。震災世帯では、「11～15年未満」が90.4％と圧倒的に高くなっている。

前回調査と比較すると、「20年以上」（33.5％）が最も多いなど、概ね傾向は変わらない。

就労・経済の状況について

① 就労形態

質問 5 あなたの勤労形態は何ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：勤労形態 (%)

		自営業	常時雇用者 (正規の職員・従業員)	臨時雇用者 (パートを含む)	労働者派遣 事業所の派遣 社員	会社などの 役員	内職	家事手伝い (家族従事者)	その他	無職	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	5.2	45.8	25.5	2.8	2.0	0.0	0.4	2.8	13.5	2.0
	一般計(n=199)	5.0	50.8	26.1	2.5	1.0	0.0	0.5	3.0	8.5	2.5
	震災計(n=52)	5.8	26.9	23.1	3.8	5.8	0.0	0.0	1.9	32.7	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	3.9	42.2	25.3	2.6	1.3	0.0	1.3	1.3	12.3	9.7
	一般計(n=120)	4.2	43.3	24.2	3.3	1.7	0.0	1.7	1.7	8.3	11.7
	震災計(n=34)	2.9	38.2	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.5	2.9

勤労形態については、全体としてみると「常時雇用者」が 45.8%と最も多く、「臨時雇用者」が 25.5%、「無職」が 13.5%とこれに続く。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯は「無職」(32.7%)の割合が相対的に高く、全体の割合を引き上げる形となっている。

前回調査と比較しても、大きな傾向の違いは見られなかった。

② 仕事内容

【質問 6～8 は、質問 5 で 1～8 (「9. 無職」を除く) とお答えの方にかがいます。】

質問 6 あなたの現在の仕事の内容は何ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：仕事内容 (%)

		専門的職業 (医師、看護師、 保健師、保育士・教員など 資格を有するもの)	管理的職業 (会社や団体の役員など)	事務(一般事務のほか、 外勤事務を含む)	販売(商品の販売、 店員、セールスなど)	運輸・通信 (職業運転士・同助手、 荷役など運輸従事者、 通信従事者)	農業、林業、 漁業	技能職(製造、加工、 組立、建設、修理などの 従事者)	サービス業 (飲食店、理容・美容店 など接客やサービス業 従事者)	清掃・包装 等従事者	その他	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=212)	18.9	4.2	25.5	12.3	0.5	0.9	10.4	14.2	3.3	6.1	3.8
	一般計(n=177)	18.6	2.3	23.7	11.9	0.6	1.1	11.9	15.8	3.4	6.8	4.0
	震災計(n=35)	20.0	14.3	34.3	14.3	0.0	0.0	2.9	5.7	2.9	2.9	2.9
平成30年度	寡婦世帯計(n=120)	18.3	0.8	30.0	14.2	0.8	0.0	12.5	10.8		10.0	2.5
	一般計(n=96)	15.6	1.0	28.1	14.6	1.0	0.0	13.5	12.5		10.4	3.1
	震災計(n=24)	29.2	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	8.3	4.2		8.3	0.0

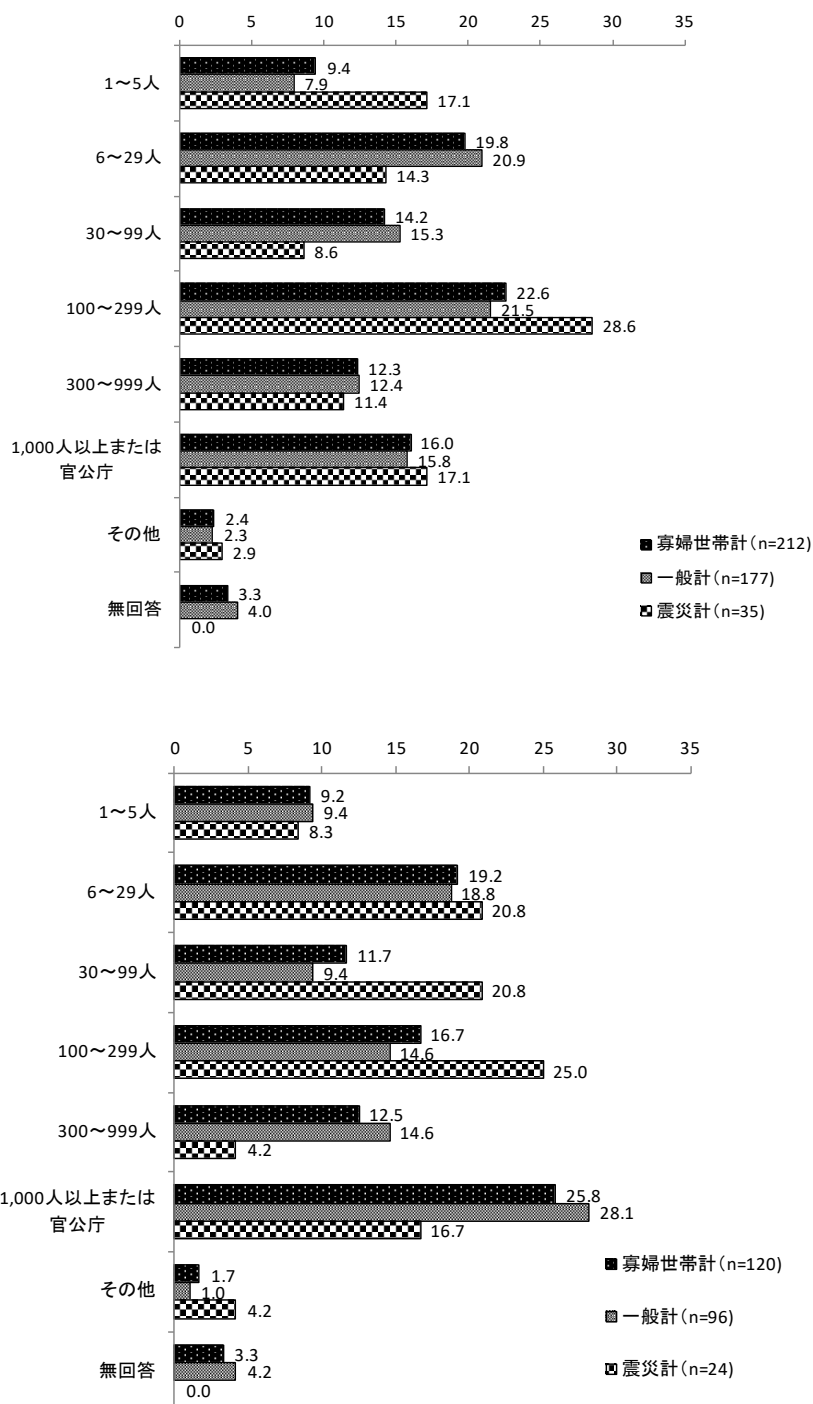
仕事の内容については、全体としてみると「事務」(25.5%)と最も多く、「専門的職業」(18.9%)、「販売」(14.2%)がこれに続いた。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯においては「事務職」(34.3%)、「専門的職業」(20.0%)、「管理的職業」(14.3%)、「販売」(14.3%)が一般世帯より割合が高かった。

前回調査と比較すると、全体としてみると「事務職」が最多の傾向に変わりはないが、「サービス業」に従事する回答者の割合は増加している。

③ 勤務先の規模

質問7 あなたの勤務先の本社、支社、工場などを含めた企業全体の規模はどれくらいですか。
 [該当する番号 1 つに○をつけてください。]

図：勤務先の規模（％）【上：令和5年度、下：平成30年度】



勤務先の規模については、全体としてみると「100～299人」が22.6%と最も多く、次いで「6～29人」

が19.8%、「1000人以上または官公庁」が16.0%となっている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯では「6～29人」（14.3%）や「30～99人」（8.6%）などの割合が一般世帯より低くなっていることがわかる。

④ 仕事を探した方法

質問 8 あなたは、今の仕事をどのような方法で探しましたか。[該当する番号 1 つに ○ をつけてください。]

表：仕事を探した方法（%）

		公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	ひとり親家庭支援員などの紹介	知人・友人などの紹介	家族や親族の紹介	学校からの紹介	企業の募集広告	新聞・チラシ・雑誌などの求人広告	インターネット	探す必要はなかった	その他	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=212)	30.2	0.5	21.2	5.7	1.4	4.7	9.4	4.7	9.4	9.9	2.8
	一般計(n=177)	31.6	0.6	19.8	6.2	1.7	4.5	9.6	5.1	7.9	10.2	2.8
	震災計(n=35)	22.9	0.0	28.6	2.9	0.0	5.7	8.6	2.9	17.1	8.6	2.9
平成30年度	寡婦世帯計(n=120)	30.0	1.7	15.8	5.8	1.7	15.8	15.8		6.7	5.8	1.7
	一般計(n=96)	30.2	2.1	12.5	7.3	2.1	17.7	16.7		5.2	5.2	2.1
	震災計(n=24)	29.2	0.0	29.2	0.0	0.0	8.3	12.5		12.5	8.3	0.0

仕事を探した方法については、全体として「公共職業安定所の紹介」（30.2%）が最も高く、「知人・友人などの紹介」（21.2%）と「その他」（9.9%）が続いた。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯では「知人・友人などの紹介」（28.6%）が一般世帯と比べて高かった。

前回調査と比較しても、「公共職業安定所の紹介」や「知人・友人などの紹介」が高いことには変わらない。

⑤ 仕事に就かない理由

【質問 9 は、質問 5 で「9. 無職」とお答えの方に向かってください。】

質問 9 あなたが仕事に就かない（就けない）主な理由は何ですか。[該当する番号 1 つに ○ をつけてください。]

表：仕事に就かない理由（%）

		自分が病弱	子どもの世話、病気	他の家族の世話や介護	適職がない、勤務条件が合わない	働く必要がない	高齢のため	就職のための技能、技術習得中	意欲がわかない	その他	現在求職中である	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=34)	26.5	0.0	8.8	8.8	8.8	11.8	0.0	0.0	17.6	14.7	2.9
	一般計(n=17)	35.3	0.0	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	23.5	17.6	5.9
	震災計(n=17)	17.6	0.0	11.8	11.8	17.6	17.6	0.0	0.0	11.8	11.8	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=19)	15.8	5.3	26.3	10.5	10.5	10.5	0.0		15.8	15.8	0.0
	一般計(n=10)	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0	20.0	0.0		10.0	20.0	0.0
	震災計(n=9)	11.1	0.0	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0		22.2	11.1	0.0

仕事に就かない理由については、全体としては「自分が病弱」（26.5%）が最も高く、次いで「その他」

(17.6%)、「現在休職中である」(14.7%)が続いている。一般世帯と震災世帯を比較すると、「働く必要がない」「高齢のため」がそれぞれ17.6%と高くなっている。

前回調査と比較すると、全体としては「自分が病弱」の割合が上昇している一方で、「他の家族の世話や介護」と回答した世帯の割合は低下している。

⑥ 年間収入（世帯）

質問 10 あなたの世帯の令和4年の年間収入（税金等控除前）はどの位ですか（ボーナス、児童扶養手当、年金、養育費、仕送り等臨時収入を含む全世界帯員の合計額）。 [金額を記入してください。]

表：年間収入（世帯）（%）

		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600万円以上	収入なし	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	3.6	14.7	18.3	16.3	13.9	12.0	12.0	1.6	7.6
	一般計(n=199)	4.0	16.6	19.6	16.1	12.6	9.0	11.6	2.0	8.5
	震災計(n=52)	1.9	7.7	13.5	17.3	19.2	23.1	13.5	0.0	3.8
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	1.9	10.4	13.0	15.6	14.3	14.3	7.8	0.6	22.1
	一般計(n=120)	2.5	7.5	12.5	15.0	16.7	15.0	5.0	0.8	25.0
	震災計(n=34)	0.0	20.6	14.7	17.6	5.9	11.8	17.6	0.0	11.8

年間収入（世帯）については、全体としてみると「200～300万円未満」（18.3%）が最も多く、「300～400万円未満」（16.3%）と「100～200万円未満」（14.7%）がこれに続いている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯においては「400～500万円未満」（19.2%）、「500～600万円未満」（23.1%）の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、今回調査では全体としてみれば100万円～400万円未満の割合がほぼ5割と、世帯収入の分布が下方に動いていることが確認された。

⑦ 年間収入（個人）

質問 11 あなたの令和4年の年間収入（税金等控除前）はどの位ですか（ボーナス、児童扶養手当、年金、養育費、仕送り等臨時収入を含む合計額）。 [金額を記入してください。]

表：年間収入（個人）（%）

		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600万円以上	収入なし	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	6.8	19.1	26.7	18.7	7.6	6.8	4.4	2.8	7.2
	一般計(n=199)	6.5	20.1	29.1	18.6	7.5	3.0	3.5	3.5	8.0
	震災計(n=52)	7.7	15.4	17.3	19.2	7.7	21.2	7.7	0.0	3.8
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	3.2	20.8	24.0	13.6	5.2	1.3	5.2	5.2	21.4
	一般計(n=120)	3.3	19.2	24.2	14.2	4.2	1.7	3.3	5.8	24.2
	震災計(n=34)	2.9	26.5	23.5	11.8	8.8	0.0	11.8	2.9	11.8

年間収入（個人）については、全体としてみると「200～300万円未満」が26.7%、「100～200万円未

満」が 19.1%、「300～400 万円未満」が 18.7%の順となっている。一般世帯と震災世帯を比較すると、「500～600 万円未満」カテゴリーで震災世帯がやや高い割合を示している。

前回調査と比較して、震災世帯での「100～200 万円未満」の割合が小さくなっている。

⑧ 年間就労収入（個人）

質問 12 あなたの令和 4 年の年間就労収入（税金等控除前）はどの位ですか（ボーナス等を含む合計額）。
[金額を記入してください。]

表：年間就労収入（個人）（%）

		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600万円以上	収入なし	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	8.0	18.7	23.9	15.5	6.0	3.6	2.4	10.0	12.0
	一般計(n=199)	5.5	20.1	27.1	17.1	6.5	2.5	2.0	5.5	13.6
	震災計(n=52)	17.3	13.5	11.5	9.6	3.8	7.7	3.8	26.9	5.8
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	5.8	20.8	23.4	10.4	3.2	1.9	1.9	9.7	22.7
	一般計(n=120)	3.3	20.0	25.0	11.7	2.5	1.7	1.7	9.2	25.0
	震災計(n=34)	14.7	23.5	17.6	5.9	5.9	2.9	2.9	11.8	14.7

年間就労収入については、全体としてみると「200～300 万円未満」が 23.9%と最も多く、「100～200 万円未満」が 18.7%、「300～400 万円未満」が 15.5%とこれに続いている。震災世帯では、「100 万円未満」が 17.3%と一般世帯と比べて高くなっている。

前回調査と比較して、大きな傾向の違いは見られなかった。

社会保険等の利用状況について

① 社会保険の加入状況

質問 13 あなたの現在の社会保険の加入の状況は、どのようになっていますか。

[該当する番号 1つに○をつけてください。]

ア 雇用保険

表：雇用保険の加入状況（％）

		加入している	加入していない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	71.7	23.9	4.4
	一般計(n=199)	77.9	18.6	3.5
	震災計(n=52)	48.1	44.2	7.7
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	69.5	18.2	12.3
	一般計(n=120)	72.5	15.8	11.7
	震災計(n=34)	58.8	26.5	14.7

雇用保険の加入状況については、全体としてみると「加入している」が 71.7%で、「加入していない」(23.9%)を大きく上回っている。一般世帯、震災世帯ともにこの傾向は変わらないが、震災世帯のほうが「加入していない」と回答する割合が高いことが確認された。

前回調査と比較して、震災世帯での「加入していない」が 44.2%と高くなっている。

イ 健康保険

表：健康保険の加入状況（％）

		被用者保険(協会けんぽ、組合健保、共済組合等)に加入している	国民健康保険に加入している	その他	加入していない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	69.7	24.3	2.0	1.2	2.8
	一般計(n=199)	75.9	16.6	2.5	1.5	3.5
	震災計(n=52)	46.2	53.8	0.0	0.0	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	64.3	20.1	1.3	1.9	13.0
	一般計(n=120)	66.7	16.7	1.7	1.7	14.2
	震災計(n=34)	55.9	32.4	0.0	2.9	8.8

健康保険については、全体としてみると「被用者保険に加入している」が 69.7%、「国民健康保険に加入している」が 24.3%となっており、「加入していない」世帯は 1.2%にとどまった。一般世帯と震災世帯を比較すると、いずれかの保険に加入している割合が 8 割を超えているが、震災世帯の方が「国民健康

保険」(53.8%)の加入している割合が高いことが確認された。

前回調査と比較して、震災世帯での「国民健康保険に加入している」が53.8%と高くなっている。

ウ 公的年金

表：公的年金の加入状況（%）

		被用者年金に加入している	国民年金に加入している	加入していない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	64.9	20.3	10.8	4.0
	一般計(n=199)	70.4	13.6	11.1	5.0
	震災計(n=52)	44.2	46.2	9.6	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	59.1	18.2	5.8	11.7
	一般計(n=120)	61.7	13.3	6.7	11.7
	震災計(n=34)	50.0	35.3	2.9	11.8

公的年金については、全体としてみると「被用者年金に加入している」が64.9%と最も多く、「国民年金に加入している」が20.3%、「加入していない」が10.8%とこれに続いた。震災世帯では、「国民年金に加入している」が46.2%と高くなっている。

前回調査と比較して、震災世帯での「国民年金に加入している」の割合が高くなった。

② 生活保護受給の有無

質問 14 あなたは現在、生活保護を受給していますか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：生活保護受給の有無（%）

		受給している	受給していない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	2.8	95.6	1.6
	一般計(n=199)	3.5	95.0	1.5
	震災計(n=52)	0.0	98.1	1.9
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	0.0	89.0	11.0
	一般計(n=120)	0.0	86.7	13.3
	震災計(n=34)	0.0	97.1	2.9

生活保護受給の有無については、今回のアンケート調査では一般世帯、震災世帯ともに「受給していない」が大部分であった。

③ 公的年金受給の有無

質問 15 あなたは現在、公的年金を受給していますか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：公的年金受給の有無（％）

		遺族年金を受給している	障害年金を受給している	老齢年金を受給している	受給していない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	21.5	0.8	7.6	67.3	2.8
	一般計(n=199)	3.5	1.0	9.0	82.9	3.5
	震災計(n=52)	90.4	0.0	1.9	7.7	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	28.6	1.9	2.6		66.9
	一般計(n=120)	13.3	2.5	3.3		80.8
	震災計(n=34)	82.4	0.0	0.0		17.6

公的年金受給の有無については、「受給していない（67.3%）」が最も高く、次いで「遺族年金を受給している」（21.5%）」が続いた。震災世帯においては、「遺族年金を受給している」が 90.4%と圧倒的に多かった。

④ 年金受給額

【質問 16 は、質問 15 で「1. 2. 3 受給している」とお答えの方のうちがいます。】

質問 16 あなたの年金月額は何万円ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：年金受給額（％）

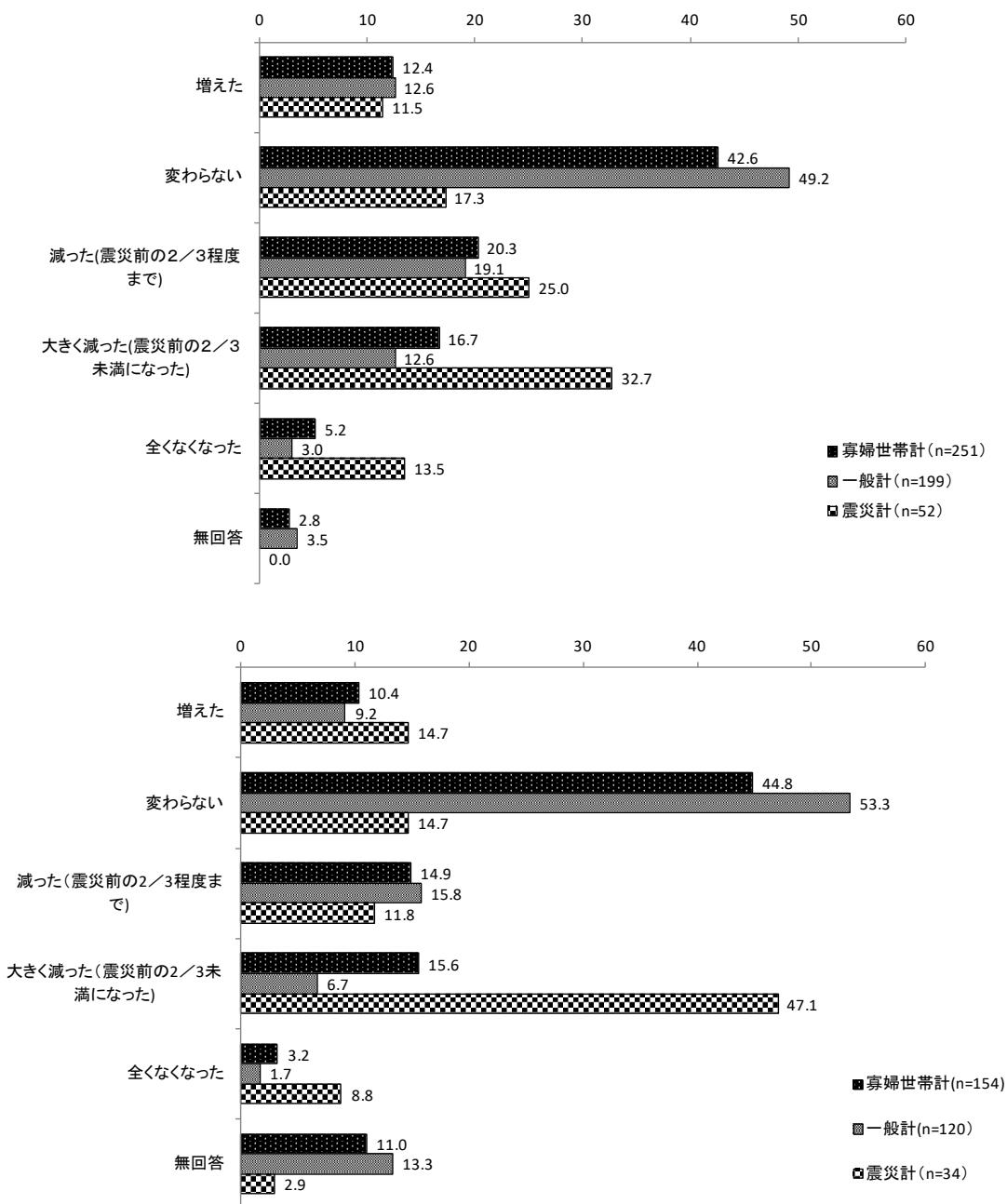
		5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20万円以上	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=75)	18.7	21.3	26.7	6.7	24.0	2.7
	一般計(n=27)	40.7	25.9	14.8	0.0	11.1	7.4
	震災計(n=48)	6.3	18.8	33.3	10.4	31.3	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=51)	11.8	35.3	27.5	11.8	11.8	2.0
	一般計(n=23)	17.4	43.5	34.8	0.0	4.3	0.0
	震災計(n=28)	7.1	28.6	21.4	21.4	17.9	3.6

年金月額については、全体としては「10～15 万円未満」が 26.7%と最も多く、「5～10 万円未満」が 21.3%とこれに続いた。一般世帯では、「5 万円未満」、震災世帯では「10～15 万円未満」が多いなど、前回調査と比較してもばらつきが見られた。

⑤ 東日本大震災後の世帯の年間収入の変化

質問 17 東日本大震災後、世帯の年間収入は変化がありましたか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

図：震災前後の世帯収入の変化 (%)【上：令和 5 年度、下：平成 30 年度】



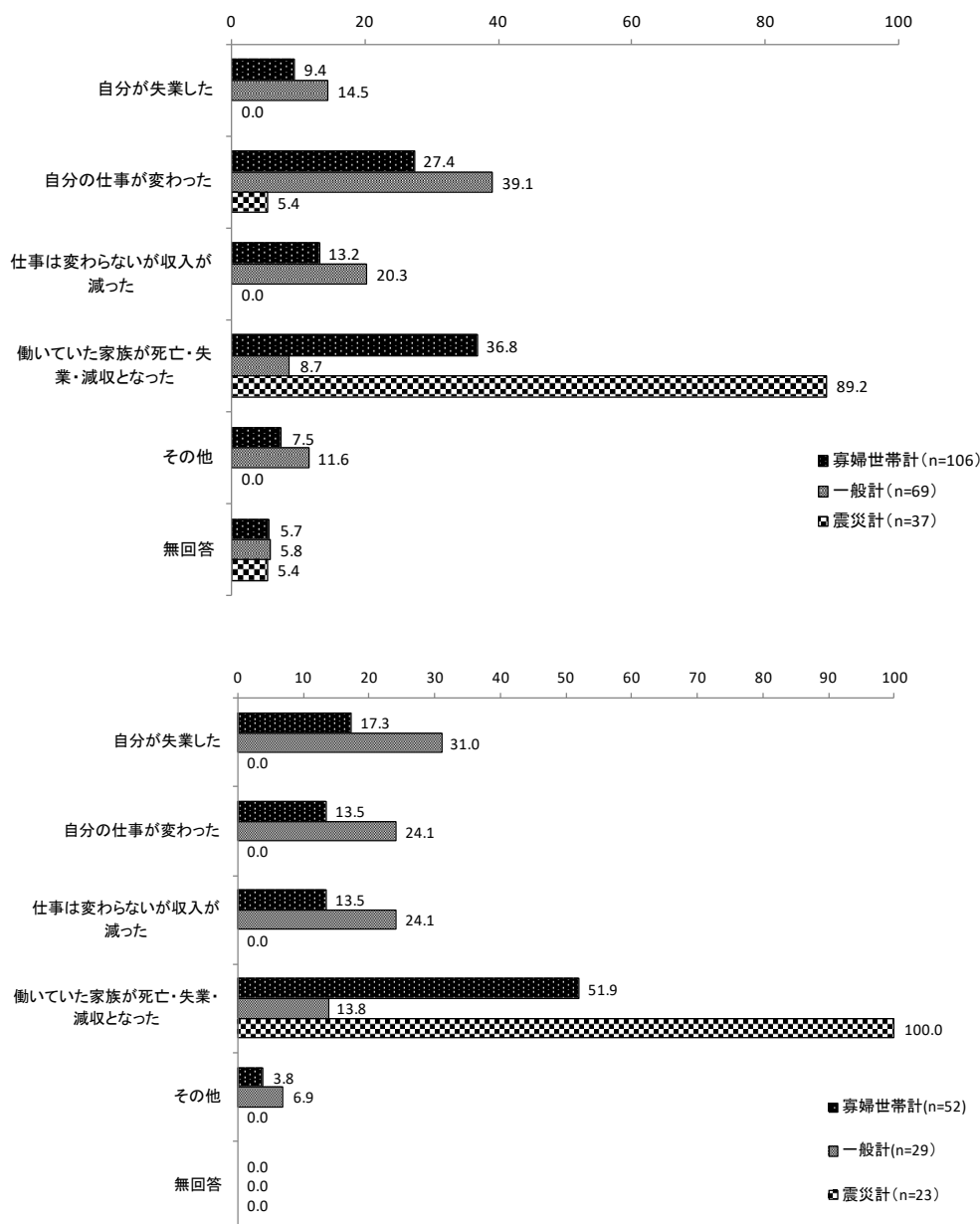
震災後の世帯収入の変化については、全体としては「変わらない」が 42.6%と最も高かった。ただし、一般世帯において「変わらない」と回答した割合が 42.6%だった一方で、震災世帯においては「変わらない」と回答した割合は 17.3%にとどまり、逆に「大きく減った」と回答した割合が 32.7%に上った。前回調査と比較しても、大きな傾向の違いは見られなかった。

⑥ 世帯収入が減った理由

【質問 18 は、質問 17 で「3. 減った、5. 全くなくなった」とお答えの方にかがいます。】

質問 18 世帯収入が減った（全くなくなった）主な理由は何ですか。【該当する番号 1 つに○をつけてください。】

図：世帯収入が減った理由（％）【上：令和 5 年度、下：平成 30 年度】



世帯収入が減った（全くなくなった）主な理由としては、全体としては「働いていた家族が死亡・失業・減収となった」が 36.8%と最も多く、「自分の仕事が変わった」が 27.4%とこれに続いた。震災世帯では、「働いていた家族が死亡・失業・減収となった」が 89.2%と多かった。

前回調査と比較しても、大きな傾向の違いは見られなかった。

⑦ 東日本大震災前の住居状況

質問 19 震災前の住居の状況について教えてください。[該当する番号 1つに○をつけてください。]

表：震災前の住居状況（％）

		持ち家(分譲マンションを含む)	父母等の家に同居	借家(民間の借家・アパート・賃貸マンション)	公営・公社・公団の賃貸住宅	間借り	会社の社宅等	母子家庭生活支援施設	その他	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	35.5	21.5	20.3	13.1	1.2	0.4	0.0	0.4	7.6
	一般計(n=199)	30.2	22.6	23.1	16.1	1.5	0.0	0.0	0.5	6.0
	震災計(n=52)	55.8	17.3	9.6	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	13.5
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	40.3	13.6	26.0	7.8	0.6	0.0	0.0	0.6	11.0
	一般計(n=120)	28.3	16.7	30.0	10.0	0.8	0.0	0.0	0.8	13.3
	震災計(n=34)	82.4	2.9	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9

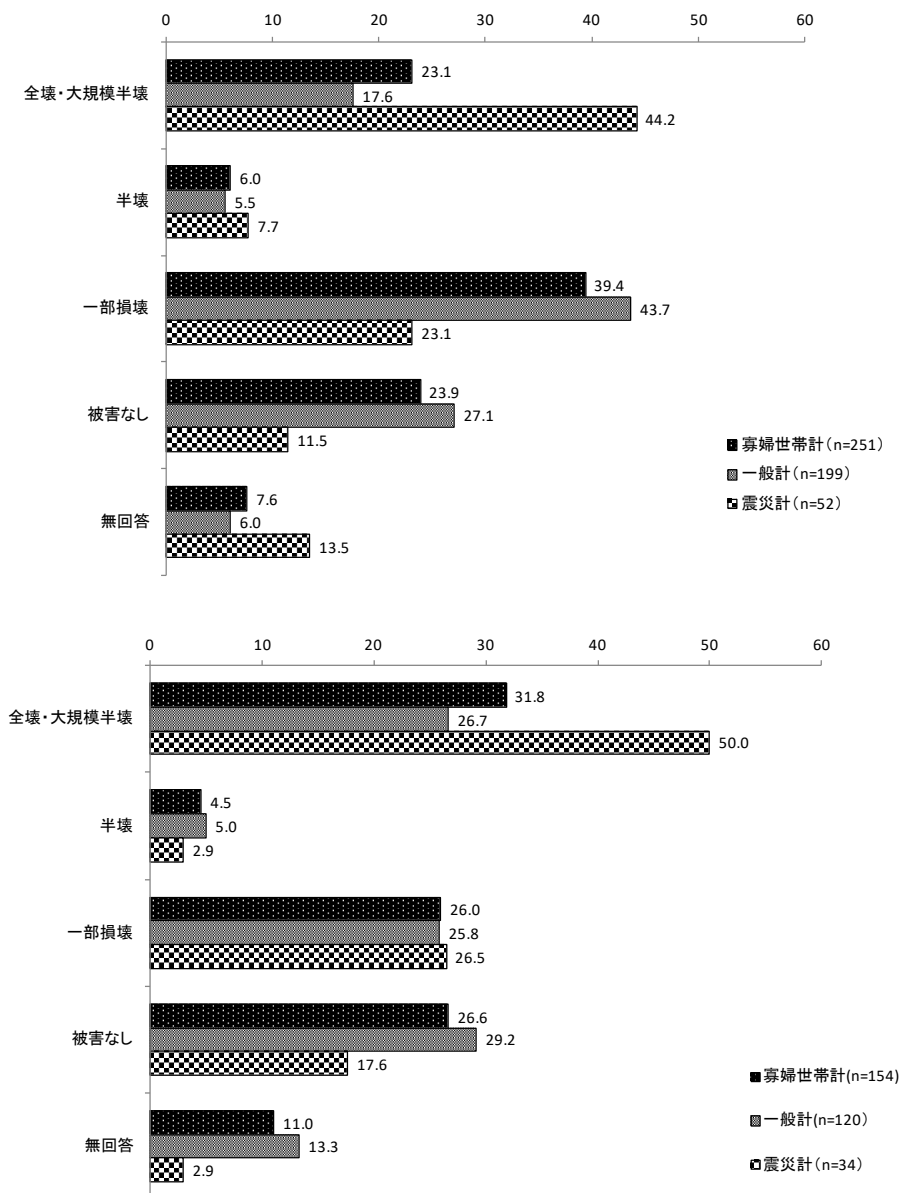
震災前の住居については、全体としては「持ち家」が 35.5%と最も多く、「借家」が 20.3%、「父母等の家に同居」が 21.5%とこれに続く。一般世帯と震災世帯を比べると、震災世帯においては「持ち家」の割合が 55.8%と過半数を占めている。

前回調査と比較すると、震災世帯で「持ち家」の割合が多い点は変わらないが、「借家」も増えている。

⑧ 東日本大震災による住居の被害状況

質問 20 東日本大震災前の住居は、被害がありましたか。【該当する番号 1つに○をつけてください。】

図：震災による住居の被害状況（％）【上：令和 5 年度、下：平成 30 年度】



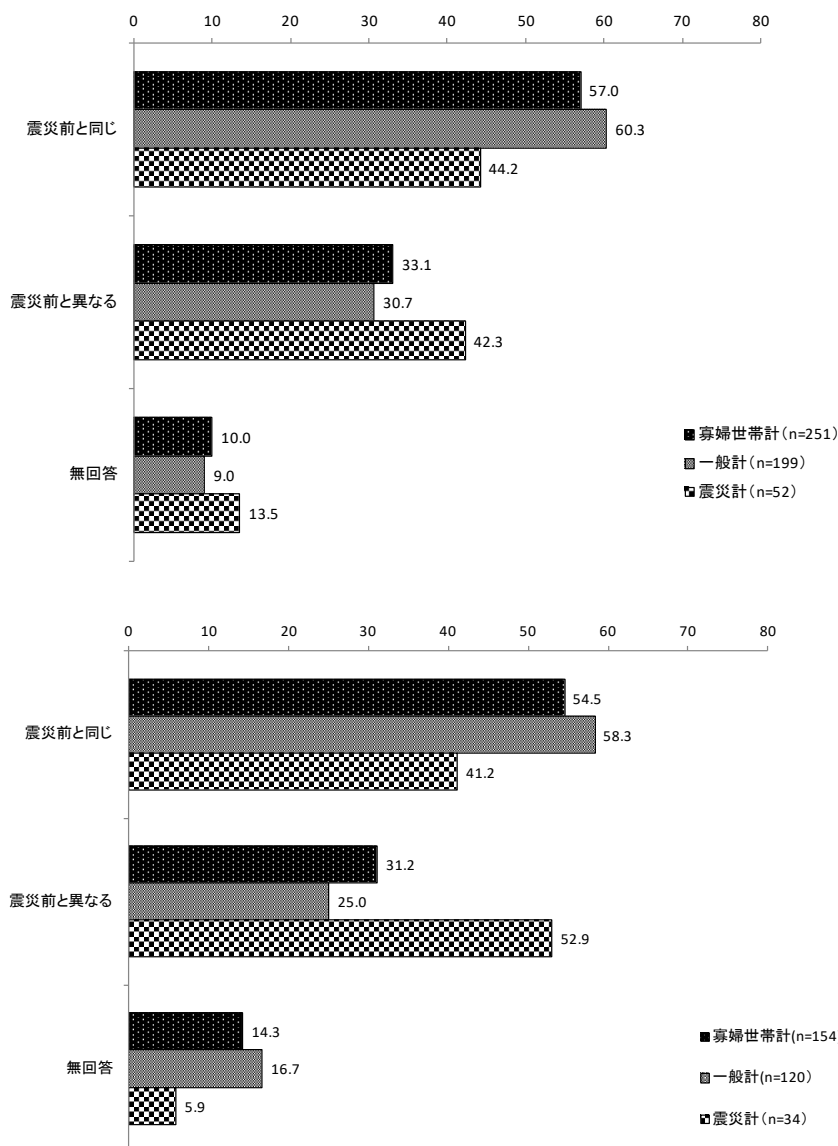
震災による住居の被害状況については、全体としては「一部損壊」が 39.4%と最も高く、次いで「被害なし」(23.9%)、「全壊・大規模半壊」(23.1%) がほぼ同程度となっている。震災世帯の 4 割が「全壊・大規模半壊」と回答しており、全体としての傾向を押し上げた形である。

前回調査と比較すると、全体として「一部損壊」の割合が大きくなっている。

⑨ 東日本大震災前後の住居の変化

質問 21 東日本大震災の前と後では、震災を理由として住居が異なりますか。[該当する番号 1つに○をつけてください。]

図：震災前後の住居の変化（％）【上：令和 5 年度、下：平成 30 年度】



震災前後の住居の変化については、全体としては「震災前と同じ」（57.0％）が過半数を占め、「震災前と異なる」（33.1％）と回答した割合は約 3 割にとどまっている。ただ、一般世帯、震災世帯別にみると、一般世帯は「震災前と同じ」（57.0％）が「震災前と異なる」（30.7％）を上回っている一方で、震災世帯では「震災前と異なる」（42.3％）と回答した世帯が 4 割以上を占めている。

前回調査と比較しても、大きな傾向の違いは見られなかった。

⑩ 東日本大震災後の住居状況

【質問 22 は、質問 21 で「2. 震災前と異なる」とお答えの方にかがいます。】

質問 22 あなたの東日本大震災後の住居の状況について教えてください。〔該当する番号 1 つに○をつけてください。〕

表：震災後の住居状況（％）

		持ち家を再 建・購入した	仮設住宅・ みなし仮設 住宅	災害公営住 宅	父母や親族 等の家に同 居	借家(民間 の借家・ア パート・賃貸 マンション)	公営・公社・ 公団の賃貸 住宅	間借り	会社の社宅 等	母子家庭支 援施設	その他	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=83)	41.0	2.4	9.6	6.0	21.7	9.6	3.6	0.0	0.0	3.6	2.4
	一般計(n=61)	29.5	3.3	13.1	6.6	24.6	13.1	4.9	0.0	0.0	1.6	3.3
	震災計(n=22)	72.7	0.0	0.0	4.5	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
平成30年度	寡婦世帯計(n=48)	39.6	6.3	14.6	12.5	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0
	一般計(n=30)	26.7	6.7	20.0	16.7	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0
	震災計(n=18)	61.1	5.6	5.6	5.6	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

震災後の住居については、全体としては「持ち家を再建・購入した」（41.0％）が最も多く、「借家」（21.7％）、「災害公営住宅」と「公営・公社・公団の賃貸住宅」（9.6％）がこれに続く。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯では「持ち家を再建・購入した」が 72.7％と圧倒的に多く、全体の比率を引き上げた形である。

前回調査と比較して、「持ち家を再建・購入した」が多いことには変わりはない。

困りごとの状況

① 現在困っていること

質問 23 現在あなたが困っていること悩んでいることは何ですか。

[該当する番号 2 つ以内に○をつけてください。]

表：現在困っていること (%)

		生活費	仕事	住居	家事	健康	親族の健康・介護	相談相手	結婚	老後のこと	その他	特になし	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=251)	41.4	11.2	6.8	0.0	18.7	23.1	2.0	0.4	35.5	0.4	8.8	13.5
	一般計(n=199)	47.7	12.1	7.0	0.0	18.6	20.1	1.0	0.5	37.2	0.5	7.0	13.1
	震災計(n=52)	17.3	7.7	5.8	0.0	19.2	34.6	5.8	0.0	28.8	0.0	15.4	15.4
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	37.0	16.2	5.8	0.6	19.5	22.1	2.6	0.0	41.6	37.0	10.4	10.4
	一般計(n=120)	38.3	17.5	6.7	0.8	14.2	20.0	3.3	0.0	38.3	38.3	10.0	12.5
	震災計(n=34)	32.4	11.8	2.9	0.0	38.2	29.4	0.0	0.0	52.9	32.4	11.8	2.9

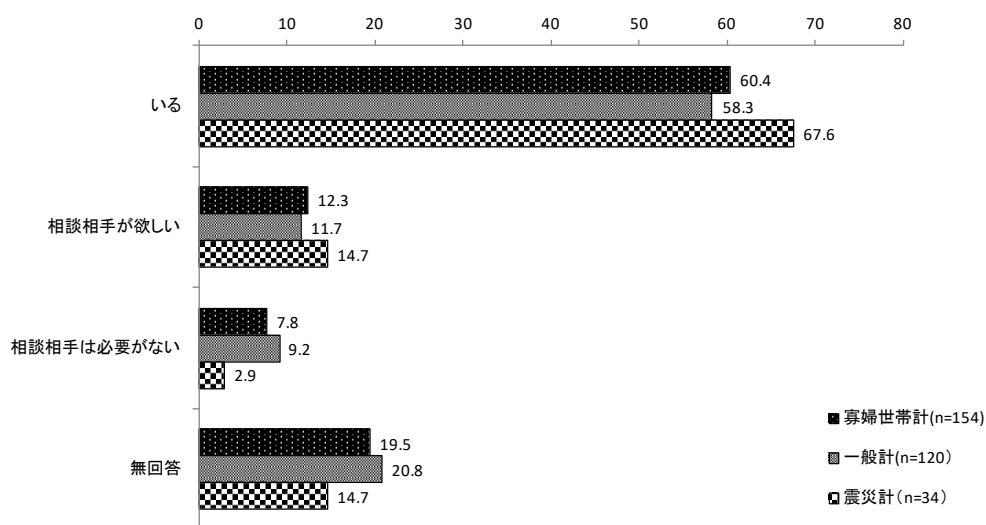
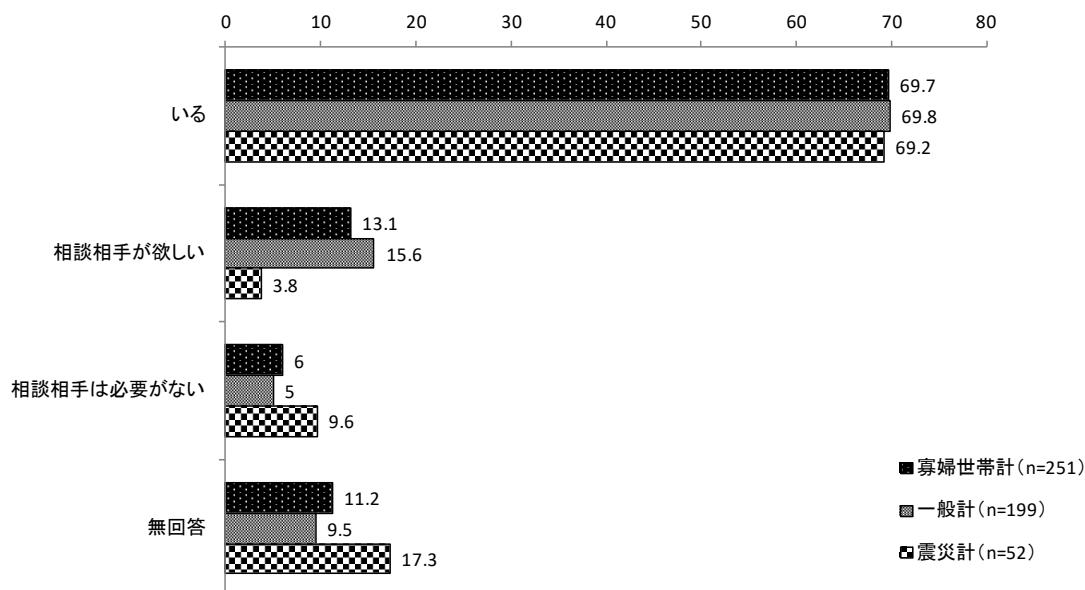
現在困っていることについては、全体では「生活費」(41.4%)が最も多く、「老後のこと」(35.5%)、「親族の健康・介護」(23.1%)が続いた。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯においては「健康」(19.2%)と回答した割合も高かった。

前回調査と比較しても、全体として「生活費」や「老後のこと」が主要な困りごととなっている構図に変わりはない。

② 相談相手の有無

質問 24 あなたには相談相手がありますか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

図：相談相手の有無 (%) 【上：令和 5 年度、下：平成 30 年度】



相談相手の有無については、一般世帯、震災世帯ともに相談相手が「いる」が過半数を占めている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯は「相談相手は必要ない」(9.6%)の割合がやや大きく、代わって「相談相手欲しい」(3.8%)と回答する世帯が少なくなっている。

前回調査と比較して、相談相手が「いる」が過半数を占めていることには変わりがない。

③ 相談先

【質問 25 は、質問 24 で「1. いる」とお答えの方にかがいます。】

質問 25 心配ごと等の相談は誰（どこ）にしていますか。[該当する番号 2 つ以内に○をつけてください。]

表：相談先（％）

	令和5年度			平成30年度		
	寡婦世帯計(n=175)			寡婦世帯計(n=93)		
	一般計 (n=139)	震災計 (n=36)		一般計 (n=70)	震災計 (n=23)	
民生委員・児童委員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ひとり親家庭支援員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県母子・父子福祉センター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母子父子寡婦福祉団体・ひとり親家庭支援団体	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県保健福祉事務所	1.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
児童相談所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
市町村	2.9	3.6	0.0	1.1	1.4	0.0
家族・親族	82.3	82.7	80.6	80.6	78.6	87.0
友人・知人	68.0	66.9	72.2	75.3	78.6	65.2
NPO法人	0.0	0.0	0.0	1.1	1.4	0.0
任意団体	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.1	0.7	2.8	2.2	2.9	0.0
無回答	1.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

心配ごと等の相談相手については、一般世帯・震災世帯ともに「家族・親族」や「友人・知人」と回答する世帯が過半数を超えた。一般世帯において「市町村」（3.6％）や「県保健福祉事務所」（2.2％）と回答する世帯もわずかに確認されたが、震災世帯においては（「その他」を除いて）「家族・親族」、「友人・知人」以外の回答はなかった。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いは見られなかった。

福祉制度の利用状況

① 希望する福祉制度

質問 26 あなたが希望する福祉制度は何ですか。[該当する番号 3 つ以内に○をつけてください。]

表：希望する福祉制度（％）

	令和5年度			平成30年度		
	寡婦世帯計(n=251)			寡婦世帯計(n=154)		
	一般計 (n=199)	震災計 (n=52)		一般計 (n=120)	震災計 (n=34)	
公的年金の増額	54.6	58.3	40.4	62.3	58.3	76.5
児童扶養手当の増額	3.2	2.0	7.7	5.8	6.7	2.9
生活保護費の増額	3.6	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0
母子父子寡婦福祉資金貸付金制度の充実	6.4	8.0	0.0	8.4	10.0	2.9
4. 以外の貸付金制度の充実	8.0	9.5	1.9	3.9	4.2	2.9
母子・父子家庭等医療費助成制度の充実	10.8	11.1	9.6	10.4	10.0	11.8
減税	53.4	55.3	46.2	43.5	41.7	50.0
公営住宅の優先入居	6.8	8.0	1.9	5.8	6.7	2.9
就職相談・斡旋、職業訓練等	9.2	8.5	11.5	7.1	8.3	2.9
優先雇用	5.2	6.0	1.9	52.6	52.5	52.9
技能・資格取得のための援助の充実	10.4	10.1	11.5	13.0	12.5	14.7
保育制度・留守家庭児童に対する事業の充実	5.6	4.0	11.5	7.8	6.7	11.8
学習支援	5.6	6.5	1.9	0.6	0.8	0.0
その他	2.4	1.5	5.8	4.5	3.3	8.8
希望する制度はない	5.2	4.0	9.6	6.5	5.8	8.8
無回答	8.0	6.5	13.5	13.0	15.0	5.9

希望する福祉制度については、全体として「公的年金の増額」（54.6％）と最も多く、次いで「減税」（53.4％）、「父子・父子家庭等医療費助成制度の充実」（10.8％）の順となっている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯の方が「就職相談・斡旋、職業訓練等」、「技能・資格取得のための援助の充実」「保育制度・留守家庭児童に対する事業の充実」がそれぞれ11.5％と一般世帯よりも高かった。

前回調査と比較すると、「公的年金の増額」や「減税」が主に希望する福祉制度であることには変わりはないが、今回調査の方が「優先雇用」を希望する声は少なくなった。

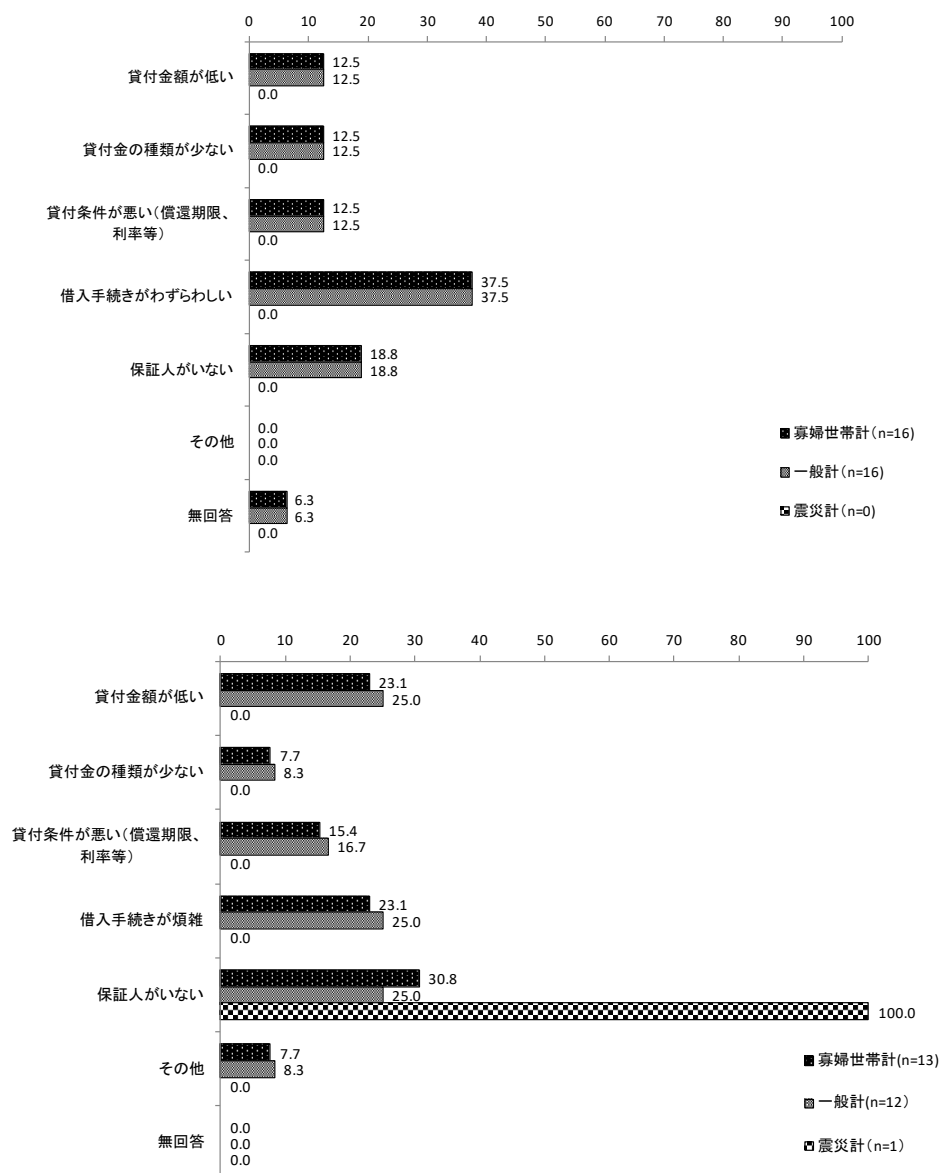
② 母子父子寡婦福祉貸付金制度の充実を希望する理由

【質問 27 は、質問 26 の「4. 母子父子寡婦福祉資金貸付金制度の充実」とお答えの方にかがいます。】

質問 27 母子父子寡婦福祉資金貸付金制度の充実を希望する理由は何ですか。

[該当する番号 1つに○をつけてください。]

図：母子父子寡婦福祉貸付金制度の充実を希望する理由（％）
【上：令和 5 年度、下：平成 30 年度】



母子父子寡婦福祉資金貸付金制度の充実する理由としては、全体としては「借入手続きがわずらわしい」（37.5％）が最も多く、「保証人がいない」（18.8％）と続いた。

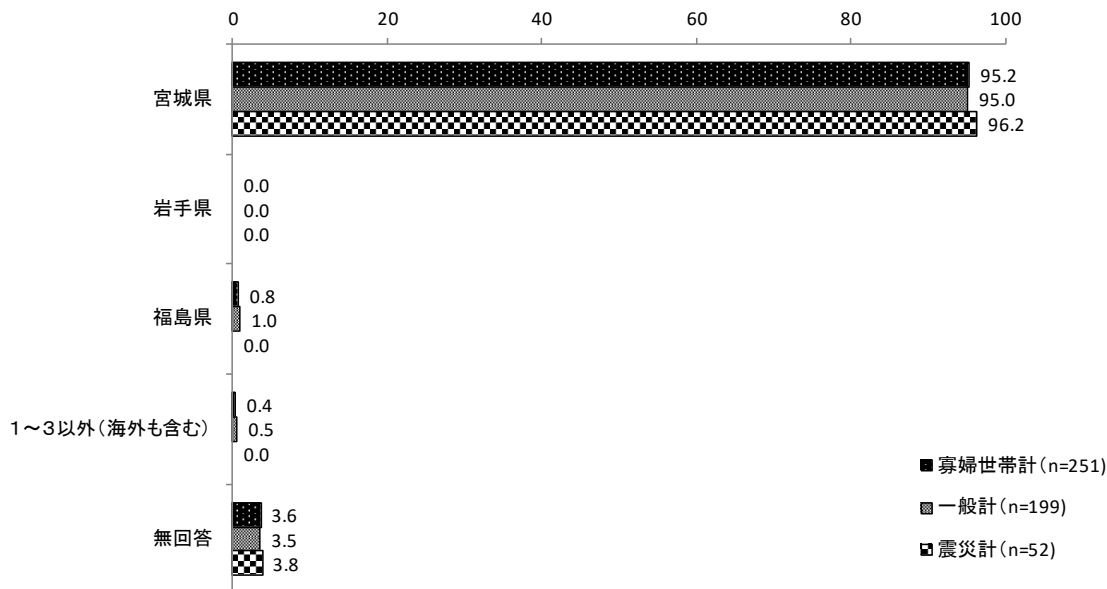
前回調査と比較して、「貸付金額が低い」の割合が小さくなった。

東日本大震災以降の状況

① 東日本大震災当時に暮らしていた場所

質問 29 東日本大震災発災当時、あなたはどこで暮らしていましたか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：東日本大震災当時に暮らしていた場所 (%)



東日本大震災発災当時に暮らしていた場所としては、一般世帯・震災世帯ともに「宮城県」が9割以上であった。

② 東日本大震災発災当時の年代

【質問 30～32 は、質問 29 で「1. 宮城県」、「2. 岩手県」、「3. 福島県」とお答えの方にかがいます。】

質問 30 あなたの当時の年代を教えてください。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：東日本大震災発災当時の年代 (%)

		発災当時、30代以上だった	発災当時、20代だった	発災当時、20歳未満だった	発災当時、高校生だった	発災当時、中学生だった	発災当時、小学校5・6年生だった	発災当時、小学校3・4年生だった	発災当時、小学校1・2年生だった	未就学児だった	無回答
令和5年度	寡婦世帯計 (n=241)	98.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
	一般計 (n=188)	98.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
	震災計 (n=49)	98.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0

東日本大震災発災当時の年代については、「発災当時、30歳以上だった」に回答が集中した。

③ 東日本大震災に起因する住居への影響

質問 31 東日本大震災発災後、震災に起因する住居についてあてはまるものを選んでください。[該当する番号すべてに○をつけてください。]

表：東日本大震災に起因する住居への影響（％）

		家屋が全壊した	家屋が大規模半壊した	家屋が半壊した	家屋が一部損壊した	避難所で1年未満暮らししていた	避難所で1年以上暮らししていた	仮設住宅への転居を含めて、引っ越しを1回経験した	仮設住宅への転居を含めて、引っ越しを2回経験した	仮設住宅への転居を含めて、引っ越しを3回経験した	自宅が帰宅困難区域となったため、転居せざるを得なくなった	上記の経験はない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=241)	17.0	8.7	5.0	37.3	6.6	0.4	2.9	6.2	5.0	1.2	28.6	1.7
	一般計(n=188)	11.5	8.4	4.7	39.3	5.8	0.5	1.6	6.3	4.2	0.5	31.9	2.1
	震災計(n=49)	38.0	10.0	6.0	30.0	10.0	0.0	8.0	6.0	8.0	4.0	16.0	0.0

東日本大震災に起因する住居への影響は、「家屋が一部損壊した」（37.3%）が最も多く、次いで「上記の経験はない」（28.6%）、「家屋が全壊した」（17.0%）が続いた。震災世帯では、「家屋が全壊した」がほぼ4割を占めた。

④ 東日本大震災に起因する経験

質問 32 東日本大震災発災後、震災に起因する経験についてあてはまるものを選んでください。[該当する番号すべてに○をつけてください。]

表：東日本大震災に起因する経験（％）

		親やきょうだい、こどもが亡くなった	「1」以外の親族が亡くなった	両親が離婚した	私が仕事を失った	家族が仕事を失った	私自身が身体的に大きな被害を受けた	家族が身体的に大きな被害を受けた	家族が震災関連死した	パートナーから暴言や暴力等を受けた	東日本大震災発災後に開設された遊び場や学習支援の場をよく利用していた	上記の経験はない	無回答
令和5年度	寡婦世帯計(n=241)	4.6	27.4	0.0	15.8	2.9	6.2	5.8	5.8	2.1	1.7	46.5	2.5
	一般計(n=188)	2.6	14.1	0.0	15.7	3.1	5.2	4.7	1.6	2.6	2.1	57.6	3.1
	震災計(n=49)	12.0	78.0	0.0	16.0	2.0	10.0	10.0	22.0	0.0	0.0	4.0	0.0

東日本大震災発災後、震災に起因する経験については、「上記の経験はない」（46.5%）で最も高く、次いで「『1』以外の親族が亡くなった」（27.4%）、「私が仕事を失った」（15.8%）が続いた。震災世帯では、一般世帯と比べて「上記の経験はない」が圧倒的に少なく、「『1』以外の親族が亡くなった」（78.0%）が多かった。